

けて曇り空の日が多く続いていて低温の日が多い。記録では過去に8月14日梅雨あけということがあったと聞かすが、今年はそれを更新するのではとも言われている。古老の話では今年が旧暦の5月閏(うるう)であったので(ちなみに旧暦では閏とは同じ月を2度つまり30日多く行うこと)季節はずれが多いという。そのため農業関係では閏年を好まない上に、珍事が多いという。その珍事といっても喜ばしい珍事として夏の全国高校野球の道代表校が、滝川西、駒大岩見沢の2校共空知勢であることは北海道高校野球始まって以来、空前のことであり、あえて絶後とはいいたくないが大変な珍事である。そのうえに2校の監督が共に、美唄東高校の出身ということも偶然にしても、美唄としてはビッグニュースとして、語り継がれるべき喜ばしいことと言わねばならないことであるが、珍事でもある。美唄唯一の進学校であり、野球ではさほど名高いとは思えない学校から時を同じにして甲子園に同窓2人が監督として歩を進めたことは、美唄東高校史に輝かしい一頁を加えたことであろう。両氏共健闘を祈念して止まない。しかし道代表校は必ずといってよい程、いつも相手にとって不足のない相手に不思議と当たる。クジ運も実力のうちという言葉もあるけれど？そのうえ北国育ちの人間には大変な猛暑という難敵がいる。或る意味では、これのほうが難敵であるかも知れない。夢物語りかも知れないけれど、いっそ夏の全国高校野球大会を北海道で開催してはどうかと思う。最高のコンディションでプレイすることは選手は望むところであろうし、サポーターも涼しい北海道で応援が出来る喜びを受け合であり、健全この上ない高校野球大会の開催に反対する声は少ないと思う。経済効果面から見ても、良いことづくめであると思うけれど、いかがですか？

(雨田 実記)



閏年には珍事が多いという

少なくとも少しも困らないが、今年が台風が随分と少ないと思っていたら、沖縄方面だけ早く梅雨が上がったのに他の地方は、いつまでも梅雨が上がらないという。立秋をすぎても梅雨が上がらない、そのせいか梅雨のないと言われていた、北海道でも7月下旬から8月上旬にか